

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

号外 (第 410 回)

日本人は世界に賞賛されて、日本政府は世界から非難されている

2011.3.21

こんな時に誰かの批判をしている場合ではない。
今は日本が一丸となって、復旧、復興に尽くすべきである。
これから先、被災者や被災地がどのくらいの期間、苦難な時を過ごすことになるか、想像も出来ないている。誰かを批判して、一体何が解決するのだろうか。
今はそんな時期である。だから、そんな論評が正しいのだろう。

でも僕は、こんな風潮に、「日本人の美学」に染まり過ぎ、
「情緒的で、美しすぎる」と思ってしまう。

みんな頑張っていることと、日本と日本人を危機から守ることを、
同じフィールドで評価すべきでないと思っている。
近代日本史には存在し得ない、未曾有の大惨事。問題は地震だけにとどまらず、
想定外の大津波、そして原発事故・・・、こんなことを誰が予想できたであろう。
政府与党も専門家も含めて「想定外」「予想外」と言う言葉が、これほど頻繁に、しかも何
ら後ろめたさもなく、それで全く躊躇なく使われたのは、不気味な感じを受けた。

リスクマネジメントとは、恐らく想定外の対応が重要となるはず。想定内であれば「危機」
とは言わず、「不慮への対処術」、予想・予測値への対策と準備の実施計画があれば良い。
問題は「危機」への備えであろう。国と国民を死守すべき「危機管理」であるはずだ。
危機管理の無策さと国防意識の稀有な現状を、世界中に公言した結果が、大きな事実とし
て残ったと言って良い。

事故発生直後、アメリカ政府は原子炉冷却に関する技術的支援を申し入れた。ところが、
原子炉の廃炉を前提とした提案だったため、日本政府は受け入れなかったという。
その背景には東京電力側の意向を抑えられない政府与党があった。
更に情けないのは、そのことを記者会見で暴露する官房長官。「当初は東電が『自分のとこ
ろで出来る』と言っていた」と述べ、東電側が諸外国の協力は不要と判断していたことを
明らかにした。危機管理当事者が、民間企業「東京電力」のせいにして、どうする！
信じたくはないが、噂は本当だった。

1 基 5,000 億円の原子炉が利用できなくなる東電の思惑は、自衛隊や消防庁の死を覚悟し
た命令になり、福島県民に大きな苦難を強い、アメリカの不信感を増長、それが全世界に
伝播することとなった。

現場で動いている東電の社員は、家族に遺書を託した人もいた。10 日以上前にアメリカは
廃炉を見抜き、その対策を提案していた。この決断ができなかった総理大臣、防衛大臣、
東電の営利思考に凝り固まった経営陣、もし、不幸な事件が出てしまった時、あなたたちの
責任は、どう取るつもりなのか！

たった一つの、そしてもっとも重要な危機管理としての判断ミスは、修復をむやみに遅ら
せ、国民に不用意な危機感を煽り、東電の虎の子原発の「廃炉」を決定せざるを得ない結
果となった。

今、非常時においても冷静で格式を保持した日本人は、世界中から賞賛されて、
民主党日本政府は、世界から非難されている。不幸なのは、・・・日本国民である。